

東京バッハ合唱団 月報

[第 566 号] 2009 年 8 月

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 郵便振替：00190-3-47604
Tel：03-3290-5731 Fax：03-3290-5732
mail: bachchortokyo@aol.com http://www2.tky.3web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.566
August 2009

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

延世コンサートクワイア

延世大学・大学教会聖歌隊

バッハを通して、日韓の末永い交流を!

延世コンサートクワイア
YONSEI CONCERT CHOIR

キム・ヘオク 金恵玉

(延世大学教授・合唱指揮者)

延世大学は123年の歴史を保ちながら一貫して「世界化・国際化」を標榜してきた大学であります。現在はさらに「The First and The Best」を志向するという目標をもっています。今まで延世大学はアメリカ洲やアジア圏の大学・教育機関と活発に交流してきました。延世大学を代表する《延世コンサートクワイア》は昨年、ヴィースバーデン・クアハウス、ザールブリュッケン・ヨハネス教会、デュッセルドルフ大学、ドレスデン・ルーカス教会、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス、ベルリン韓国人宣教教会で成功裡に演奏したのですが、このような公演会場を巡りながら現地の聴衆と直接交流しつつ音楽芸術を披露することができました。

今回、東京バッハ合唱団の創立47周年記念懇親会に参加させていただいたことを心の底から感謝しております。延世大学の《大学教会聖歌隊》のメンバーであるチェ・スンユク(崔順育)さんを通して、ずっと前から東京バッハ合唱団のことは耳にしてきましたが、実際懇親会で皆さんにお会いでき光栄の極みと存じます。

大村恵美子先生はお忙しい中、私たちに色々な音楽堂を見せてくださり、農村伝道神学校や日本聾話学校を參觀させていただき感動を受けました。特に、東京バッハ合唱団の47年間の歩みを見て感心しました。今まで発表されたバッハの曲がすべてリストアップされ、資料として保存されていることに、さすがだと存じました。123年間の歴史を持ちながらも、バッハを好むだけであまり幅広く歌って、発表してこなかったことを恥ずかしく思いました。これから私たちも大村恵美子先生とバッハ合唱団とのお付き合いを2年ごとに交流していきたいと存じます。色々たくさん学び、お世話になりました。

延世コンサートクワイアのドイツ巡演についての記事を、指揮者として引率されたキム先生が音楽雑誌に執筆されています。チェさんが日本語に訳してこられましたので、別刷でお届けします。隣国に、こんなに素晴らしいバッハ演奏団体が活躍しておられることを、多くの方々にお伝えできれば幸いです。



懇親会の終りに挨拶をされるキム・ヘオクさん(写真左)と、流暢な日本語で同時通訳をされるチェ・スンユクさん(同右) 合唱団創立47周年懇親会(2009年7月6日、目白聖公会集会場)にて。

延世大学・大学教会聖歌隊

チェ・スンユク 崔順育

(中央大学専任研究員・文学博士)

大村恵美子先生に初めて出会ったのは、韓国でのボンヘッファー学会(2005年)でした。それからずっと大村先生の東京バッハ合唱団のことをすばらしいと思ってきました。韓国の聖歌隊でバッハを歌うときは、必ず日本の大村先生のことを誇らしく団員らに紹介してきました。

今回創立47周年の記念懇親会におじゃまして、感動を受けました。皆さんのバッハの演奏の目録を拝見し、楽譜やら演奏の資料やら、47年間の歴史を大事に保存していることに感激を受けました。特に、懇親会するときヨーロッパの演奏旅行の経験談を聞かせていただき心を打たれました。

一人一人の心を添えた募金やこまやかな関心と気持ちがひとつになってバッハ合唱団が成り立つこと、万葉集や夏目漱石など文学と音楽を分かち合う雰囲気、そして年齢を問わずバッハを愛する気持ちひとつで共感する団員らの姿がまさに美しいと思いました。こんな素晴らしい合唱団に出会って、なおお会いでき、これからもバッハを通して末永くお互い日韓交流ができることを心から期待しております。

ロマンティック街道と古城街道へ

ローテンブルク ハイデルベルク フランクフルト
大村 恵美子

8月11日～13日にシュトゥットガルトで3泊して、2回の演奏会を終えたあとの私たちは、14日(金)早朝にそこを辞して、専用バスで北東に向かい(150キロほど、約2時間)、ロマンティック街道のもっとも有名な街、ローテンブルクに着きます。ドイツ滞在最後となるこの日は、すっかり解放されて、ひたすら古い名勝の地にあそび、ローテンブルクの町一帯を徒歩で一巡して、それから西に約165キロ(2時間半)走って、ハイデルベルクに一泊しようという1日です。

ローテンブルク Rothenburg

中世さながらの城壁にぐるりと囲まれて健在するこの小さな町は、早くから観光都市として脚光をあび、「中世の宝石箱」と賞されて、世界中から年間100万人もの観光客が訪れます。12～14世紀ごろから総延長2.5キロの城壁が町全体ををしっかりと保護し、外界とはいくつかの城門で仕切られています。

聖ヤコブ教会、市庁舎のたつマルクト広場の周辺には、ラットリンクシュトゥーベ(市参事会宴会場。そのむかし敵将の前で、3.25リットルのワインを飲みほして町を略奪と消失から救った老市長の逸話を再現する時計で有名)や、東京や鎌倉にも支店があるクリスマス用品の「ケーテ・ヴォールファルト」などもあり、メルヘンムードをかきたてます。

1274年に帝国自由都市として自立、宗教改革期の農民戦争(1524,25)では農民側にたつて敗北、マルクト広場で指導者たちの大量処刑が行われ、三十年戦争(1618-48、上記の老市長の逸話はこのときのもの)でも帝国側に敗れ、また20世紀の第2次大戦では、町の一部が爆撃されたが、米軍司令官の中止命令で、からくも壊滅をまぬがれました。

ローテンブルク鳥瞰(写真出典)



8/7	成田発 - フランクフルト着(1泊)
8/8,9	フライブルク(2泊) 8/9 大聖堂(ミサ奉仕)
8/10	フランス・ストラズブル(1泊)
8/11-13	シュトゥットガルト(3泊) 8/12 パウロ教会、13 ムターハウス(演奏会)
8/14	ローテンブルク - ハイデルベルク(1泊)
8/15	フランクフルト発(機中泊) 成田着(8/16朝)



ハイデルベルク旧市街を望む(写真出典)

ハイデルベルク Heidelberg

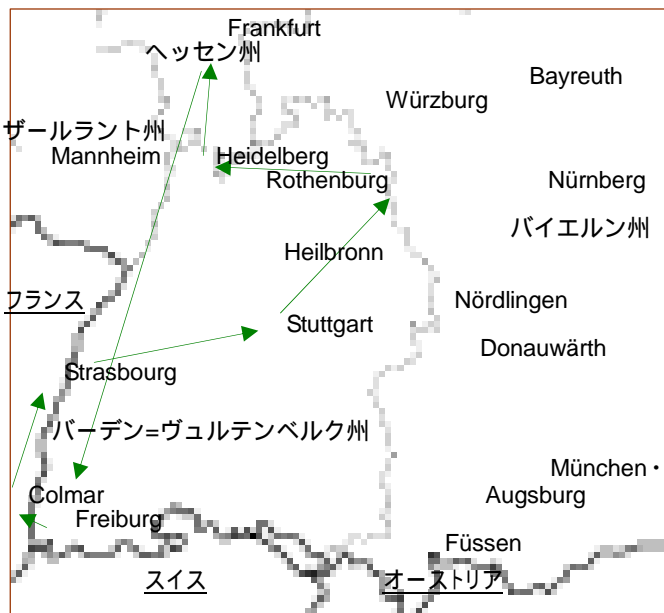
同日の午後にハイデルベルクへ着く私たちは、文芸的にもあまりにも世界的な憧憬をあつめているこの町に泊まって、このたびの旅行の最後に別れを惜しみます。合唱団では、ご夫妻とお嬢さん(伴奏ピアニストとして)が古くから活躍された森永毅彦さんが、ご一家で生まれ、ここの大学で博士号を得られた思い出の町です。1983年第1回巡演のときも、大急ぎでみんなで立ち寄り、その後ストラズブルまで直行しました。

ここは、ローテンブルクのように、たやすく徒歩でぐるりと一巡できるほど小さくはありませんが、ネッカー川に並行してまっすぐ通じるハウプトシュトラッセが、迷うことなく観光の足をたすけてくれます。

この町も、11世紀ごろからネッカー川を見おろす山の上に砦が築されましたが、宗教改革期にはカルヴァン派プロテスタントの側に立ったため城も陥落(三十年戦争)さらに18世紀にフランスのルイ14世によって徹底的に破壊されました(プファルト継承戦争)。19世紀にフランス貴族によって修復が行われて、今日の姿にいたっています。人口約14万5千人(2007年)。

プラハ、ウィーンにつぐ古い歴史をもつ大学(14世紀創設)は、宗教戦争のなりゆきによって盛衰をくりかえしますが、19世紀・20世紀にいたってマックス・ウェバー、カール・ヤスパースなどの大学者を輩出するにいたり、今や世界中から学生を集めます。中世の姿の城と、若い学生たちの青春の息吹きとで、訪れる人にはかり知れない郷愁をあたえてくれます。

大学の近くにあり、その中で講義も行われたという聖霊教会、学生自治の学生牢、修道院跡のパロック様式のファサードをもつ大学図書館、カール・テオドール橋とブリュッケ（橋）門、プファルツ選帝侯博物館等、ひとつひとつ由緒をたずねて歩くのも楽しい。でも、沿道のベンチに腰掛けて、静かに流れるネッカー川を見わたり、城の遠景をながめて旅の疲れをいやすひと時も、何ものにも代えられないものです。作曲家シューマンは、男性的なライン川を恐れ、女性的なこのネッカーを愛したことで有名です。



2つの街道

ドイツには、東西・南北を縦横に走るいくつかの特徴的な観光街道があります。ローテンブルクは、縦の「ロマンティック街道」と、横の「古城街道」が交差する地点にあります。

ロマンティック街道 Romantische Strasse (上図 印の線)：北の基点ヴュルツブルクから、南はアルプスの麓フュッセンまで、全長約 350 キロ。古城街道 Burgen Strasse (上図 印の線)：西の基点、ラインとネッカーの出会う町マンハイムから、東へニュルンベルクまで、約 300 キロ。どちらの基点にも、現在ドイツの玄関ともいべき空港のあるフランクフルトから、直線距離 100 キロ以内で接続しています。

ヴュルツブルク、ローテンブルク、アウグスブルク、フュッセン、その郊外の有名なノイシュヴァンシュタイン城へと、ほぼ直線的につづくロマンティック街道は、古くローマ時代にまで遡りますが、「ロマンティック街道」と名づけられたのは、「ローマに通ずる」古来の道が戦後の復興過程で、現代の観光的名所の街道として復元されていったのです。旧・新教の勢力争いが激化した地帯で、教会堂も両方の特徴をそれぞれに残し、リーメンスナイダーの彫刻その他、多くのすぐれた芸術作品が生かされています。ドイツがイタリア文化を吸収する上

での、重要な役割を果たしてきた道です。

一方、マンハイム、ハイデルベルク、ハイルブロン(ここまでネッカー川沿い)、ローテンブルク、アンスバッハ、ニュルンベルクとほぼ東西につづく古城街道は、50 近い古城と中世以来の町村がたなり、騎士道の生きた地域。その街道は東にさらに延びて、ボヘミア、ポーランド、さらにはロシアの文化圏に達する、ロマンティック街道に劣らぬ重要な道だったのです。

フランクフルト Frankfurt

ヨーロッパに旅するとき、よく私たちを迎える玄関となるのがフランクフルト空港で、乗り継ぎであわただしく次の乗物に向かうことが多く、知人との送迎にも心をさわがし、なかなか市内をゆっくり見物する機会がありません。

現代都市としての規模も大きく、本気でこの街を知ろうとすれば数日の滞在が必要でしょう。今回の旅行では、15 時までには空港に到着し、ここに 1 泊することになっていますから、いくぶんかの見学はできるはずですが、翌朝はもう早くからドイツ南端のフライブルクへ移動しますので、元気のある方々は、ホテルに荷をおろしたら、すぐに近くの旧市内レーマーベルク(歴代の神聖ローマ帝国皇帝の戴冠式の行われた所)を目ざし、余裕があれば、ゲーテハウスを訪れるとよいでしょう。

大戦後、西ドイツの首都候補にあげられたほどの重要性をもち、ベルリンが統一ドイツの首都となった現在でも、東京、ニューヨークとともに、金融面では世界をリードする、ドイツ最大の商業・金融都市です。市域での人口は約 67 万人(2008 年)、東京と同様、その大規模な現代建築群に紛れこんだら疲れますから、短期トランジットの場合は、古きよき美しき街並みにしぼって、効果的に観光することが大事でしょう。

写真出典

ローテンブルク鳥瞰：http://de.wikipedia.org/w/index.php?title=Datei:Altstadt_%C3%9Cberblick_1.5.05_-3-.jpg&filetimestamp=20071206212704

ハイデルベルク旧市街を望む：http://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/6/6a/Heidelberg.jpg

フランクフルト・レーマーベルク：http://de.wikipedia.org/w/index.php?title=Datei:Frankfurt_Am_Main-Samstagsberg-20070607.jpg&filetimestamp=20070607204743

フランクフルト・レーマーベルク(写真出典)



創立 47 周年記念懇親会に参加して

青木 道彦（後援会員）

久しぶりに目白聖公会での、合唱団の7月の懇親会に参加させていただきました。第5回のドイツ演奏旅行を目前にひかえて、団員の皆さんもはりきっておられるようでした。大村先生が『創立 50 周年に向けて：資料集成』（脚注*）をまとめられて、当日の参加者に配布され、これまでの演奏記録や来たる 50 周年前後までの演奏計画を示してくださいました。

この会合には、いろいろ嬉しいことがありました。まず古参の団員である川戸龍夫さん（5月の荻窪教会でのコンサートにも出演されておられました [テノール団員]）が、この会にもお元気で参加されたことです。また韓国からのお二人のお客様、キム・ヘオクさんとチェ・スンユクさんが参加されて、韓国の教会音楽や合唱の状況などを話して下さったこともありました。いずれ韓国でも韓国語でのバツハ演奏が行われるのではないかと、などと楽しい想像をしてしまいました。



右手前が筆者の青木氏、左手前が精木氏 懇親会にて。

さらに一番嬉しかったことは、後援会員の精木（あべき）勇さんが、ご自身の手になるすばらしいスケッチ画集『横濱山手洋館 24』(**)を、バザーに出品して下さったことです。本来建築家の精木さんは、横浜にある歴史建造物 24 件の、正確である上に、味わい深い水彩の画集をつくりあげておられ、懇親会場でのバザーだけでなく、合唱団事務局で取り次いでくだされば、私もあと 3,4 冊は購入したいと思うほどです。

私自身は大のカラー好きで、大村先生がカラーのご著作をまとめてくださることを渴望してはおりますが、今はまず演奏旅行が無事に、有意義に終了しますようにお祈りしております。大村先生には、その後で待望の『カラー・ハンドブック』を完成して下さいますように。

*) 当合唱団は、2012 年に創立 50 周年を迎えますが、報道機関等へのパブリシティ用に準備したものです (B5 判・16 ページ)。ご希望の方にはお分けします (送料とも無料)。

**) 『横濱山手洋館 24』、2009 年 2 月、精木建築美術研究所刊。頒価 1000 円。045-671-0987、E-mail : isamu@abeki.co.jp 同研究所。

2009 年夏 ~ 年度内の活動予定

< 前期練習最終 >

7月25日(土) 世田谷 15:30-17:30

7月27日(月) 目白 18:30-20:30

夏休み

(今年の野尻湖合宿・神山教会演奏会は、海外公演のため、ありません)

< ヨーロッパ演奏旅行 >

8月1日(土) 国内ゲネプロ 15:30-17:30 荻窪教会

8月3日(月) 国内ゲネプロ 18:30-20:30 荻窪教会

8月7日(金) 成田発 09:35 (ルフトハンザ 711)

8月16日(日) 成田着 07:50 (ルフトハンザ 710)

夏休み

< 後期練習再開 >

8月29日(土) 世田谷 15:30-17:30

8月31日(月) 目白 18:30-20:30

< 特別演奏会 >

12月5日(土) 16:00-17:30、世田谷中央教会

- ・カンタータ BWV 124 (イエス 共にあらん)
- ・モテット BWV 225 (主にむかいて歌え 新たな歌)
- ・クリスマスオラトリオ 第一部 (この地に野宿して)

< 第 104 回定期演奏会 >

2010 年 5 月ごろ、会場未定

- ・カンタータ BWV 17 (感謝さげ 頌め歌うものに)
(SATB, 合唱, ob2, str, bc. 定期初演)
- ・カンタータ BWV 52 (悪しきこの世よ なれを頼まじ)
(S ソロ, 合唱, hn2, ob3, fg, str, bc. 野尻 2007, 定期初演)
- ・カンタータ BWV 124 (イエス 共にあらん)
(SATB, 合唱, hn, oba, str, bc. 定期 1978, 1998)
- ・カンタータ BWV 4 (キリスト 死につながれしが)
(SATB, 合唱, zi, tb3, str (Va2), bc. 定期 1972, 1980, 1983 独)

創立記念企画 (2011-2013 年) を含む計画 (暫定案)

2010 年	春	104 定期	< 上掲 >
	冬	105 定期	カタタ 111, 71, 170(?), クリ・お
2011 年	春	106 定期	ヨハネ受難曲 (記念企画)
	冬	107 定期	クリスマスオラトリオ - , 他 (記念企画)
2012 年 (50 周年)	春	108 定期	マタイ受難曲 (記念企画)
	冬	109 定期	クリスマスオラトリオ - , 他 (記念企画)
2013 年	春	なし	
	冬	110 定期	口短調ミサ曲 (記念企画)
2014 年	春	111 定期	カタタ 125, 199, 85, 76
	冬	112 定期	カタタ 64, 190, 196, 170(?)

もう一步。あなたのコインで、演奏旅行に送り出してください。

2009 年 7 月 20 日現在

【ヨーロッパ演奏旅行募金】 2,690,401 円 (目標 300 万円)